

令和2年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ

兵 庫 県 教 育 委 員 会

目 次

I	令和2年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況の まとめ		
1	参加生徒数等について	・・・	1
2	公立中学校、県立中等教育学校及び県立大学附属中学校の 活動について	・・・	2
3	市立特別支援学校の活動について	・・・	6
II	地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション） 実施状況について	・・・	7
[資料1]	令和2年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施 後アンケート調査の結果	・・・	8
[資料2]	令和2年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員会 について	・・・	15

I 令和２年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況のまとめ

(義務教育学校〔後期課程〕は公立中学校に含む)

1 参加生徒数等について

(1) 実施校は、360 校

(全公立中学校 340 校、県立中等教育学校 1 校、県立大学附属中学校 1 校、市立特別支援学校 18 校)

A[通常の事業所において活動をした学校]：45 校(12.5%) (内数：市立特別支援学校 7 校)

B[コロナ禍における代替活動をした学校]：315 校(87.5%) (内数：市立特別支援学校 11 校)

(2) 実施期間は、令和２年 7 月 9 日～令和３年 3 月 18 日 (2 学期実施：91.4%)

(3) 参加生徒数は、41,893 名 (内数：特別支援学級 770 名、市立特別支援学校 150 名)

(4) 班数は、4,478 班で 1 班につき生徒平均 9.4 名 ※23 年間：1,121,090 名

(内数：特別支援学校 36 班で 1 班について生徒平均 4.2 名)

A[事業所等での活動のみ]：750 班で 1 班につき生徒平均 3.1 名

(5) 活動場所数は、1,783 カ所で 1 カ所につき生徒平均 23.5 名

(内数：特別支援学校 36 カ所で 1 カ所について生徒平均 4.2 名)

A[事業所等での活動のみ]：728 カ所で 1 カ所につき生徒平均 3.2 名

(6) 指導ボランティアの数は、4,489 名でボランティア 1 名につき生徒平均 9.3 名

(内数：特別支援学校 78 名で 1 名について生徒平均 1.9 名)

A[事業所等での活動のみ]：1,165 名でボランティア 1 名につき生徒平均 2.0 名

(7) 市立特別支援学校の介助補助員数は、17 名

年度	実施校数		2 年生		班の数	活動場所の数	指導ボランティアの数
			学級数	生徒数			
R2	全体	360	1,309	41,893	4,478	1,783	4,489
	事業所等	(45)	(100)	(2,348)	(750)	(728)	(1,165)
2019(R1)		359	1,269	42,346	16,866	16,741	22,352
H30		359	1,329	43,614	16,827	17,180	24,282
H29		360	1,345	44,922	16,872	16,969	22,657
H28		359	1,447	46,502	17,360	17,379	22,901
H27		362	1,418	47,523	17,657	17,557	22,531
H26		362	1,409	48,045	18,040	17,373	22,577
H25		364	1,415	48,801	17,660	17,261	22,955

年度	班編制		活動場所	指導ボランティア
R2	全体	1 班：9.4 名	23.5 名につき 1 カ所	9.3 名につき 1 名
	事業所等	1 班：3.1 名	3.2 名につき 1 カ所	2.0 名につき 1 名
2019(R1)		1 班：2.5 名	2.5 名につき 1 カ所	1.9 名につき 1 名
H30		1 班：2.6 名	2.5 名につき 1 カ所	1.8 名につき 1 名
H29		1 班：2.7 名	2.6 名につき 1 カ所	2.0 名につき 1 名
H28		1 班：2.7 名	2.7 名につき 1 カ所	2.0 名につき 1 名
H27		1 班：2.7 名	2.7 名につき 1 カ所	2.1 名につき 1 名
H26		1 班：2.7 名	2.8 名につき 1 カ所	2.1 名につき 1 名
H25		1 班：2.8 名	2.8 名につき 1 カ所	2.1 名につき 1 名

2 公立中学校、県立中等教育学校及び県立大学附属中学校の活動について

(1) 活動内容

ア 分野別

	R2※ ¹			2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25
	全体	通常	代替							
① ボランティア・福祉体験活動	46.1%	4.9%	48.0%	9.9%	9.0%	8.7%	8.9%	9.3%	8.3%	8.0%
② 職場体験活動	25.0%	81.5%	22.4%	82.3%	82.9%	83.1%	82.8%	82.5%	83.8%	83.5%
③ 文化・芸術創作体験活動※ ²	15.8%	6.6%	16.3%	3.5%	3.9%	3.7%	3.9%	4.0%	3.4%	3.1%
④ その他※ ³	9.7%	2.0%	10.0%	2.2%	2.0%	2.3%	2.1%	1.8%	2.3%	3.2%
⑤ 農林水産体験活動	3.4%	5.0%	3.4%	2.1%	2.2%	2.3%	2.3%	2.4%	2.2%	2.2%

※¹ 通常：例年と同様に事業所において活動した生徒の割合 代替：コロナ禍における代替活動した生徒の割合

※² ③「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

※³ ④「その他」には、「国際理解、科学技術、環境、情報」が含まれている。

イ 内容別（上位10の活動内容）

	R2※ ¹			2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25
	全体	通常	代替							
① 文化・芸術創作活動※ ²	15.8%	6.6	16.3	3.5%	3.9%	3.7%	3.9%	4.0%	3.3%	3.1%
② その他職業※ ⁴	14.3%	-	14.9	-	-	-	-	-	-	-
③ 役所・消防署等	2.7%	14.3	2.2	8.3%	8.1%	8.5%	7.8%	7.7%	7.5%	8.0%
④ 小学校・高校・大学	1.9%	8.4	1.6	6.9%	6.9%	6.7%	6.1%	5.9%	5.4%	5.5%
⑤ 幼児教育	1.3%	17.2	0.6	20.2%	20.9%	20.8%	20.9%	20.8%	20.6%	21.1%
⑥ 販売	1.1%	13.7	0.5	16.9%	17.5%	17.7%	17.9%	17.6%	20.3%	19.6%
⑦ スポーツ体育施設	0.8%	3.8	0.7	3.7%	3.4%	3.4%	3.5%	3.6%	3.5%	3.7%
⑧ 社会福祉施設	0.8%	4.9	0.6	9.2%	8.4%	8.0%	8.0%	8.0%	7.1%	6.9%
⑨ 製造・建築	0.8%	4.9	0.6	4.0%	4.2%	4.3%	4.5%	4.7%	4.7%	5.1%
⑩ 病院	0.5%	1.6	0.5	4.4%	4.4%	4.1%	4.0%	3.8%	3.8%	3.7%

※⁴ 主に令和2年度コロナ禍における代替措置として、職場へのインタビュー・見学や地域で職業人を招いた体験・講話等

ウ 本年度の特色ある取組

① 例年と同様に事業所において活動した取組

<地域の特色を生かした体験> ・記念館での展示作業及び来館者への館内ガイド業務 ・水産センターでの水産試験研究 ・漁業センターでの水槽の掃除・餌やり ・公園の管理補助、花植え替え ・キャンプ場での清掃、湖畔のボート手入れ ・ゴルフ場での接客・環境整備 ・環境体験施設での来館者と創作活動 ・郷土料理の学習及び調理 ・施設での昔の道具の製作体験	<地場産業等での体験> ・リンゴ園での木の手入れ・施肥 ・農園での枝豆の収穫 ・農園でのたまねぎの定植 ・農場での牛・小動物の飼育 ・漁港での水揚げ漁獲物販売準備 ・工場での線香の製造・販売 ・工場でのちりめんじゃこの製造 ・鉄工所での部品組み立て ・アイスクリームの製造・販売 ・道の駅での調理準備等 ・縫製工場で作業 ・建材店での測量・建築作業 ・袋詰め・梱包 ・温泉施設での準備・清掃・接客	<福祉体験活動> ・福祉施設での介助や訓練の補助 ・動物病院での動物愛護活動 ・こども園での保育補助 ・作業所での障害者との交流 <その他特徴的な体験> ・鉄道車両・レール点検、清掃 ・プラネタリウムでのアナウンス ・和太鼓の製作 ・番組制作、機材整理、収録現場見学 ・ドローン操縦 ・就労支援施設でのパン製造 ・高齢者とのレクリエーション活動 ・新聞記事の作成
--	--	---

② コロナ禍における代替活動の取組

<地域活性化に向けた活動> ・マスクを製作し、地域の施設に寄付 ・医療従事者へのメッセージの作成 ・募金活動と募金した方への手作りお守りの作成 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止ポスターの製作を配布 ・地域のケーブルテレビと連携し、市のPRを考え発表 ・地域活性化ポスターの作成 ・コミュニティーセンターと連携し、乳幼児の夏まわりの企画・運営 ・飛び出し防止看板の作成 <将来について考えを深める活動> ・事業所を訪問し、インタビューや見学	<地域の伝統や文化に関する活動> ・姫路城の観光客向け魅力探し ・学校にて染物、着付け、木工作業の事業所を講師に体験活動 ・講演後、赤穂緞通の活動 <美化、環境整備活動> ・校区の畑の除草(無農薬農業の講話後) ・観光協会と連携した海岸での清掃活動 ・公園、保育施設での花壇の整備と花の植え ・地域防災の視点での砂防学習と植樹活動 ・河川敷でのミズアオイ保護活動 ・校区の危険個所の実地調査活動
---	--

(2) 生徒の希望達成度(例年と同様に事業所において活動した生徒の割合)

- ・第一希望が叶えられた生徒は、65.2%である。

活動内容	R2	2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22
・第一希望が叶えられた生徒	65.2%	70.7%	69.9%	69.4%	70.2%	68.4%	68.1%	69.1%	70.0%	70.9%	70.6%
・第二希望が叶えられた生徒	14.4%	16.3%	16.2%	16.7%	17.4%	17.1%	18.9%	17.6%	17.1%	16.5%	16.2%
・第三希望が叶えられた生徒	5.6%	6.4%	6.1%	7.0%	5.9%	6.4%	7.1%	7.4%	6.8%	6.6%	6.5%
・その他	14.8%	6.6%	7.8%	6.8%	6.5%	8.1%	6.0%	5.9%	6.1%	6.0%	6.7%

(3) 第一希望にならなかった生徒への対応(複数回答)(例年と同様に事業所において活動した学校における割合)

- ・他の紹介及び新しい受入先開拓 ……65.8%
- ・活動の意義の話 ……………60.5%
- ・時間をかけて話し合った ……………57.9%

(4) 生徒の「やりたいことができる」活動場所の確保について(例年と同様に事業所において活動した学校における割合)

- ・新規の活動場所の割合(数) …… 11.0%(78カ所)
- ・校区外の活動場所の割合(数) …… 13.5%(96カ所)

(5) 事前指導について

ア 事前指導の平均時間数…5.5時間(R元年度10.8時間)

イ 主な事前指導の内容例(公立中学校及び中等教育学校の実施率)

	R2	2019(R元)
・趣旨及び活動説明会	83.3%	100%
・希望調査	51.8%	100%
・マナー指導等	50.3%	94.4%
・受入先の紹介等	50.0%	90.9%
・ボランティア等との打ち合わせ	40.6%	80.9%
・出発式	39.8%	81.8%
・キャリアノート等による目標設定	37.4%	47.5%
・他学年、地域等への啓発活動	31.0%	65.4%
・受入先への訪問	22.5%	96.8%
・福祉学習	22.5%	30.2%
・名刺作り等	19.3%	85.6%

(6) 事後指導について

ア 事後指導の平均時間数…3.2 時間（R 元年度 7.8 時間）

イ 主な事後指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

	R 2	2019（R 元）
・感想文集作成等	45.3%	90.6%
・発展学習※	45.3%	49.3%
・キャリアートによる振り返り	41.2%	40.5%
・礼状作成等	40.4%	98.2%
・広報活動	31.9%	56.3%
・実践発表会	27.8%	85.0%
・「トライやる」アクション	24.6%	46.6%
・交流会	5.0%	18.2%

※ 発展学習実施校（155 校）の内訳

環境学習（26.3%） 福祉・健康学習（19.0%） 防災学習（15.2%） 情報学習（13.7%）
人権学習（11.1%） 平和学習（5.0%） 国際理解学習（4.4%）

(7) 事前・事後指導における進路学習（キャリア教育含む）の実施

（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

- ・事前指導のみ ……………14.9%
- ・事後指導のみ …………… 7.9%
- ・事前指導・事後指導どちらも実施……77.2%
- ・実施していない …………… 0%

(8) 「トライやる・ウィーク」における校種間連携について

小学校と連携した取組の実施	33.6%	高等学校と連携した取組の実施	6.1%
---------------	-------	----------------	------

〔 連携した内容 〕

- ・小学校に出向き、体験したことを発表。
- ・「トライやる・アクション」において、小学生の登校指導や小学生とともに草抜き、掃き掃除などのボランティア活動を実施。
- ・近隣の高等学校を農業体験の受入れ先事業所として登録

(9) 不登校生徒への影響（市立特別支援学校は除く）

- ・1年生の時に不登校の生徒（年間30日以上欠席）のうち、「トライやる・ウィーク」に全日参加した生徒は、416名（全体の31.7%）であった。
- ・実施後1ヵ月の状況は、208名（全日参加生徒の25.2%）の生徒の登校率が上昇した。

	調査校	在籍生徒数	左のうち1年生の時に不登校の生徒数	全日参加生徒数	実施後1ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒	実施後2ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒
R2	360校	43,982名	1,529名	416名 27.2%	132名 31.7%	105名 25.2%
2019 (R1)	359校	43,042名	1,445名	581名 40.2%	208名 35.8%	199名 34.3%
H30	359校	44,831名	1,198名	507名 42.3%	194名 38.3%	176名 34.7%
H29	360校	45,633名	1,140名	468名 41.1%	198名 42.3%	167名 35.7%
H28	359校	46,930名	997名	428名 42.9%	191名 44.6%	176名 41.1%
H27	346校	47,876名	994名	421名 42.4%	126名 29.9%	139名 33.0%
H26	346校	48,548名	889名	360名 40.5%	151名 41.9%	136名 37.8%
H25	347校	49,128名	977名	442名 45.2%	188名 42.5%	178名 40.3%
H24	348校	49,399名	984名	457名 46.4%	175名 38.3%	157名 34.4%
H23	348校	48,781名	916名	427名 46.6%	163名 38.2%	154名 36.1%
H22	350校	48,614名	887名	344名 38.8%	128名 37.2%	129名 37.5%
H21	352校	48,021名	934名	383名 41.0%	152名 39.7%	143名 37.3%

3 市立特別支援学校の活動について(平成 17 年度から実施)

(1) 実施校数 18 校

9 月に実施 : 5 校、10 月実施 : 6 校、11 月実施 : 4 校、12 月実施 : 3 校

(2) 実施期間 令和 2 年 9 月 4 日～令和 2 年 12 月 16 日

(3) 参加生徒数 150 名 (51 クラス、在籍生徒数 164 名)

(4) 班数 36 班 (1 班平均 4.2 名)

(5) 指導ボランティア数 78 名 (生徒 1.9 名につき 1 名)

(6) 介助補助員数 17 名 (生徒 8.8 名につき 1 名)

(7) 活動場所数 36 カ所

居住地中学校区内で活動した生徒の割合 11.3% (17 名/150 名)

	実施校数	2 年生		班の数	活動場所 の数	指導ボラン ティアの数	介助補助員 の数
		学級数	生徒数				
R2	18	51	150	36	36	78	17
2019(R1)	18	46	117	91	99	189	34
H30	17	44	130	78	99	304	51
H29	18	57	164	95	112	238	66
H28	17	55	150	120	109	174	96
H27	18	46	135	109	109	234	109
H26	16	45	146	103	182	201	86
H25	17	37	112	58	86	153	51
H24	18	41	115	85	119	137	55

	班編制	活動場所数	指導ボランティア数	介助補助員数
R2	1 班: 4.2 名	4.2 名につき 1 カ所	1.9 名につき 1 名	8.8 名につき 1 名
2019(R1)	1 班: 1.3 名	1.2 名につき 1 カ所	0.6 名につき 1 名	3.4 名につき 1 名
H30	1 班: 1.7 名	1.3 名につき 1 カ所	0.4 名につき 1 名	2.5 名につき 1 名
H29	1 班: 1.7 名	1.5 名につき 1 カ所	0.7 名につき 1 名	2.5 名につき 1 名
H28	1 班: 1.3 名	1.4 名につき 1 カ所	0.9 名につき 1 名	1.6 名につき 1 名
H27	1 班: 1.2 名	1.2 名につき 1 カ所	0.6 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H26	1 班: 1.4 名	0.8 名につき 1 カ所	0.7 名につき 1 名	1.7 名につき 1 名
H25	1 班: 1.3 名	1.3 名につき 1 カ所	0.7 名につき 1 名	2.2 名につき 1 名
H24	1 班: 1.4 名	1.0 名につき 1 カ所	0.8 名につき 1 名	2.1 名につき 1 名

(8) 活動内容

ア 分野別

活 動 分 野	R2	2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
① 職場体験活動	15.8%	62.9%	55.0%	53.4%	64.2%	58.3%	53.4%	61.5%	62.9%
② 文化・芸術創作体験活動	20.7%	17.4%	10.6%	17.2%	4.9%	5.8%	2.5%	8.9%	9.1%
③ ボランティア・福祉体験活動	39.4%	13.4%	23.9%	9.5%	16.0%	16.9%	19.5%	13.1%	12.7%
④ 農林水産体験活動	22.6%	6.0%	10.2%	14.3%	8.7%	15.2%	12.7%	7.0%	11.1%
⑤ その他	1.5%	0.3%	0.3%	5.6%	6.1%	3.8%	11.9%	9.6%	4.2%

イ 内容別 (令和 2 年度上位 3 の活動内容)

① 役所・消防署	6.4%
② スポーツ体育施設	3.9%
③ 販売	2.5%

ウ 本年度の特色ある取組

・楽器製作	・美化活動	・生け花	・農業体験	・作業所での作業補助
-------	-------	------	-------	------------

Ⅱ 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション）実施状況について

（１）実施校 187校 51.9% （R元 227校 63.2%）

（２）参加生徒数 （ ）内は特別支援学校生徒参加数：内数

学年	参加生徒数	1校当たりの参加生徒数
1年生	2,971名（8）	15.9名
2年生	30,932名（13）	165.4名
3年生	2,319名（9）	12.4名
合計	36,222名（30）	193.7名

（３）活動内容について （ ）内は特別支援学校：内数 （複数回答）

活動区分	実施校数	割合	実施回数	割合
地域の祭り等を企画、運営する活動	29校(0)	15.5%	35(0)	10.4%
清掃活動やボランティア等を諸団体と連携して行う活動	154校(1)	82.4%	233(1)	69.1%
「トライやる・ウィーク」の継続的な活動	42校(3)	22.5%	69(5)	20.5%
合 計	※母数は、実施校数		337(27)	100%

（４）活動の内容例

・地域でのふれあいフェスティバル企画、運営補助 ・地域行事への参加及び演奏によるコンサート ・清掃活動、クリーンキャンペーン ・資源回収、廃品回収、エコキャップ収集 ・地域の活性化活動（地域特産品販売、PR活動、里山整備補助） ・小学校との連携事業運営補助、幼稚園・小学校運動会補助 ・地域防災マップ作成、土嚢づくり ・敬老会でのボランティア ・グランドゴルフ大会 ・コロナ対応活動（マスク製作、メッセージ作成）

（５）実施時期について （ ）内は特別支援学校：内数 （複数回答）

	実施校数	割合	実施回数	割合
土曜、日曜日等を利用して実施	185校(4)	98.4%	330(6)	97.9%
夏季休業中に実施	2校(0)	1.1%	3(0)	0.9%
冬季休業中に実施	2校(0)	1.1%	2(0)	0.6%
春季休業中に実施	2校(0)	1.1%	2(0)	0.6%
合 計	※母数は、実施校数		337(6)	100%

〔資料１〕 令和２年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施後
アンケート調査の結果（調査実施校数 ３４２校）

- １ 生 徒アンケート（回答数 ３１,５１５人）
- ２ 保護者アンケート※（回答数 １,８０５人）
- ３ 関係者アンケート※（回答数 ５９０人）
- ４ 教職員アンケート（回答数 ２,４７０人）

※ コロナ禍における代替活動を行った学校へは調査していません。

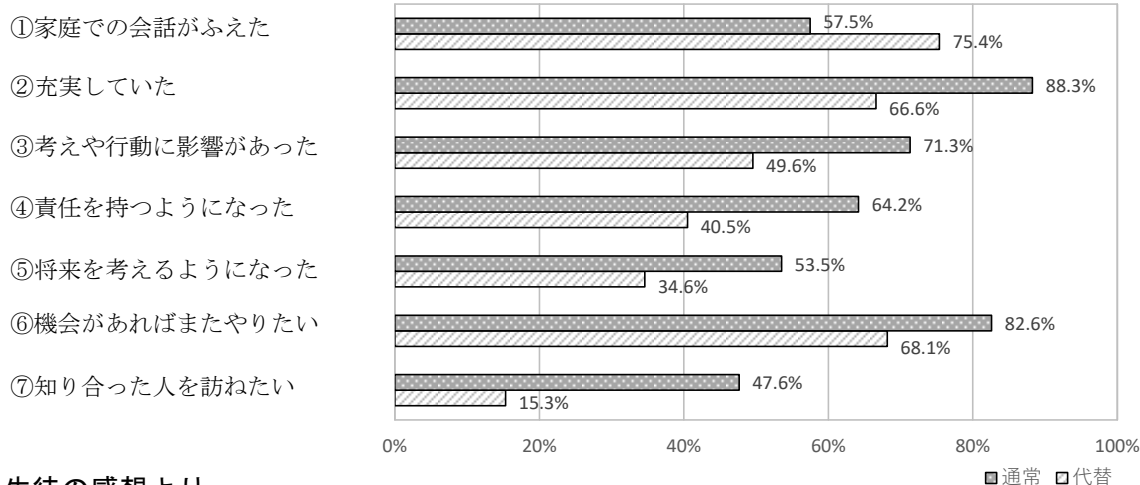


1 生徒アンケート（回答数 31,515 人）

※1 通常：例年と同様に事業所において活動した生徒の割合 代替：コロナ禍における代替活動した生徒の割合

質 問 項 目	R 2 年度*			R 元年度
	全体	通常	代替	
コミュニケーションの大切さを感じた	58.7%	72.3%	57.8%	78.7%
働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	58.6%	87.9%	56.6%	90.9%
社会のルールやマナーの大切さを感じた	57.9%	75.0%	56.8%	71.1%
人のために役に立つうれしさを感じた	54.4%	68.7%	53.4%	68.5%
達成感や自信を感じた	53.9%	66.8%	53.0%	69.0%
保護者や大人の人への感謝の気持ちを感じた	48.5%	65.0%	47.3%	68.3%
学校で学んだり活動する目的の大切さを感じた	47.8%	56.1%	47.2%	49.1%
人とのふれあうことの楽しさを感じた	46.2%	60.0%	45.2%	65.5%
大人の方の優しさを感じた	44.6%	71.0%	42.8%	69.4%

- （設問）
- ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、家庭での会話がふえた。
 - ②自分にとって、「トライやる・ウィーク」の期間は充実していた。
 - ③「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考えや行動に影響があった。
 - ④「トライやる・ウィーク」の活動を終えて、自分の決めたことに責任を持つようになった。
 - ⑤「トライやる・ウィーク」の活動を終えて、自分の進路や将来などについて考えるようになった。
 - ⑥「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があればまたやってみたい。
 - ⑦「トライやる・ウィーク」が終わってからも、「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人々を訪ねたいと思う。

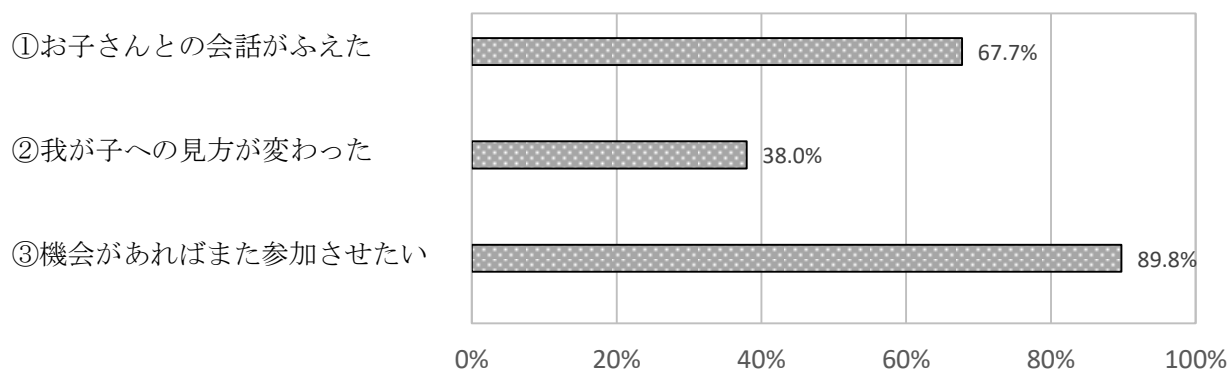


○生徒の感想より

- ・トライやる・ウィークで、働くことの大切さと達成感を感じることができた。これからの学校生活で辛いことがあっても逃げ出さず、最後までがんばりたい。
- ・自分の将来をしっかりと考えようと思えるきっかけができて、これからのことを考えるようになった。
- ・もっと長くしたかった。
- ・これまでのトライやる・ウィークと同じことはできなかったが、今できることを探し行動すること。この考えを今年のトライやる・ウィークで学べた。
- ・トライやる・ウィークをきっかけに、普段やらないことをやってみて、挑戦することの大切さを学んだ。

2 保護者アンケート（回答数 1,805 人）（※事業所において活動した学校のみ）

（設問） ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、お子さんとの会話がふえた。
 ②「トライやる・ウィーク」の活動を通して、我が子への見方が変わった。
 ③「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があれば、また参加させたい。

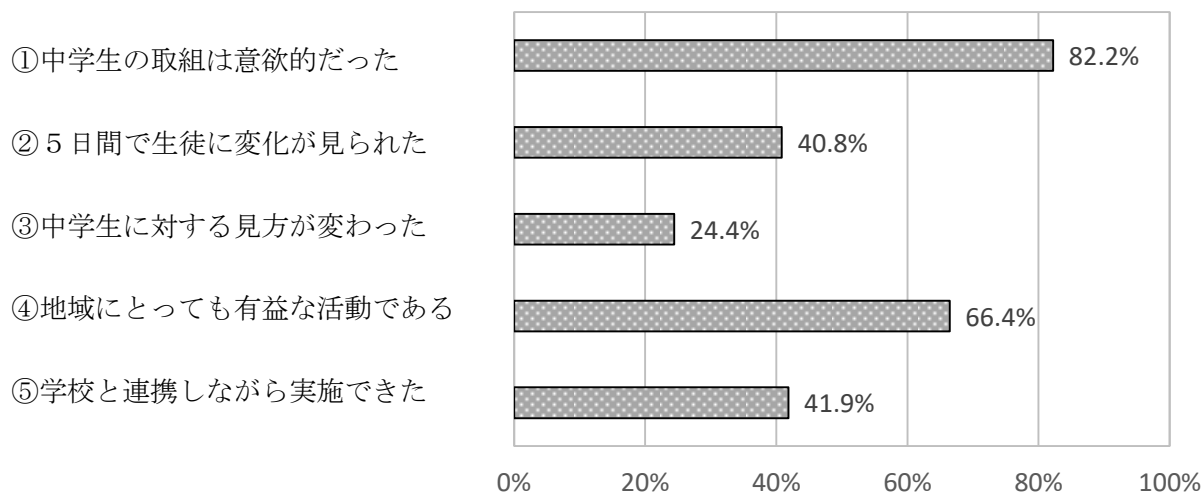


○保護者の感想より

- ・トライやる・ウィークから帰ってきた子どもたちが嬉しそうに色々な話をしてくれた。子どもにとって、とてもよい経験になったと思う。
- ・起業、会社経営等を教わり、将来へのよい刺激になったと思う。自然学校、トライやる・ウィークを経験して、少しずつ集団の中の自分、社会の中の自分について、考える機会を与えてもらっていると感じた。
- ・「楽しかった」だけでなく、「大変だった」「疲れた」と言っていたので、それなりに仕事の大変さを体験できたのだと思う。
- ・学校とは違う場所で、働く人々と接することができたのも、良い経験になったと思う。
- ・コロナ対策をしながらの生徒の受け入れは各事業所とも大変だったと思うが、子どもたちを受け入れてくださり、大変ありがたかった。
- ・いろんな学びや気づきが本人にあったようで、いつも以上にその日の出来事を教えてくれ、地域との関わりはとても大切だと改めて思った。
- ・中学生のキャリア教育は重要だと思うので、今後も続けていただきたい取組で、コロナ禍とはいえ、1日では不十分だったと感じた。今年度の対象生徒には、別途機会を与えてあげてほしい。
- ・子ども自身の自信にも繋がり、私自身も子どもの良いところに改めて気付けた。

3 関係者アンケート（回答数 590人）（※事業所において活動した学校のみ）

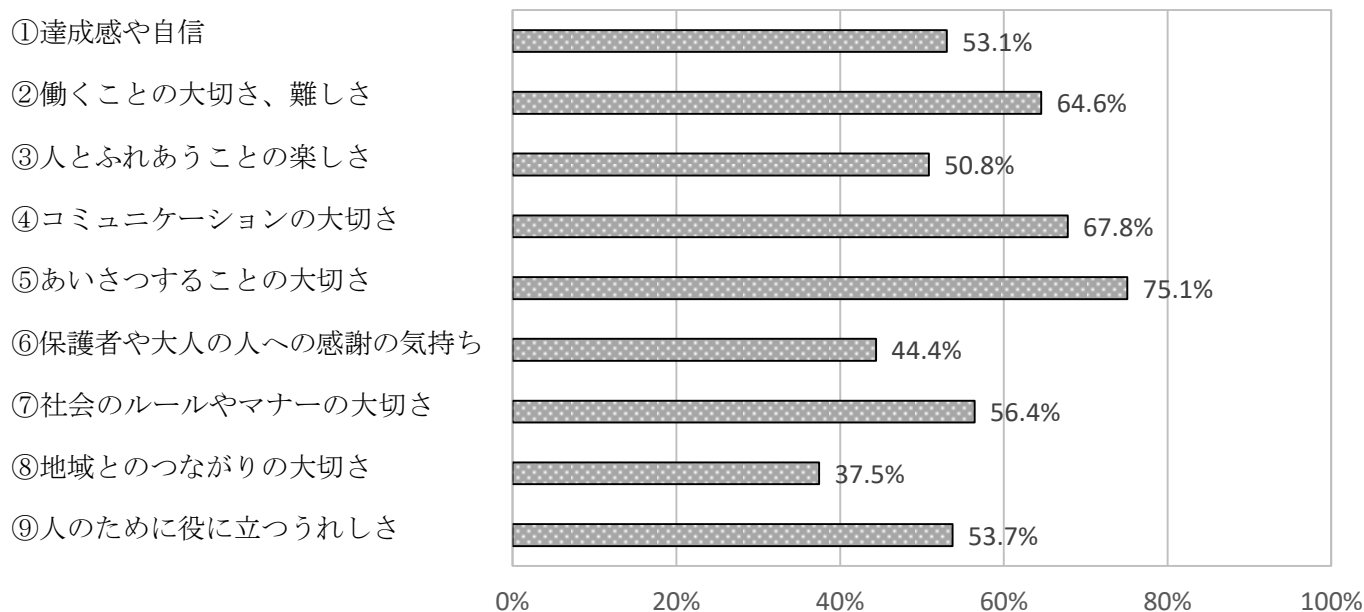
- （設問）①「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。
②「トライやる・ウィーク」の期間で生徒に変化が見られた。
③活動に関わることで中学生に対する見方が変わった。
④「トライやる・ウィーク」は地域にとっても有益な活動である。
⑤学校と連携しながら実施できた。



○ 指導ボランティアの感想より

- ・中学生と過ごす時間は私たちにとってもいろいろな気づきを与えてくれる。
- ・今年は新型コロナ感染症の影響で三日間の活動であったが、最初は緊張していたが、二日目からは自発的に行動ができ、最終日には余裕も感じられた。この経験を、これからの生活に役立ててほしい。
- ・指導を素直に聞き入れ、真面目で、明るい中学生ばかりであり、事業所側にとっても毎年貴重な事業となっている。
- ・地域で子どもを育てるという観点からも、継続実施すべき大切な事業である。
- ・生徒はとてもフレンドリーで明るくて、皆、楽しく過ごせた。若い人が施設に来てくれるだけで高齢者の方は満足していた。仕事はしんどかったと思うが頑張ってくれた。
- ・言われなくても自分で気付いて積極的に動いていたので、家庭や学校での教育の素晴らしさを改めて感じた。
- ・非常に限られた時間だったため、生徒の変化を見取ることは難しかったが、今回の体験が個々のキャリアを考えるきっかけとなってくれば幸いである。

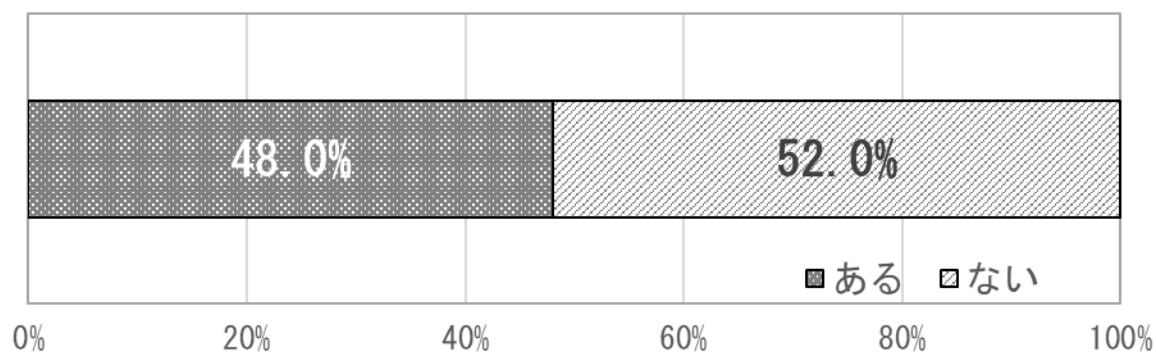
(設問) 受入先での社会体験において、生徒に身に付けてほしい力。



○ 身に付けてほしい力（こと）（その他）

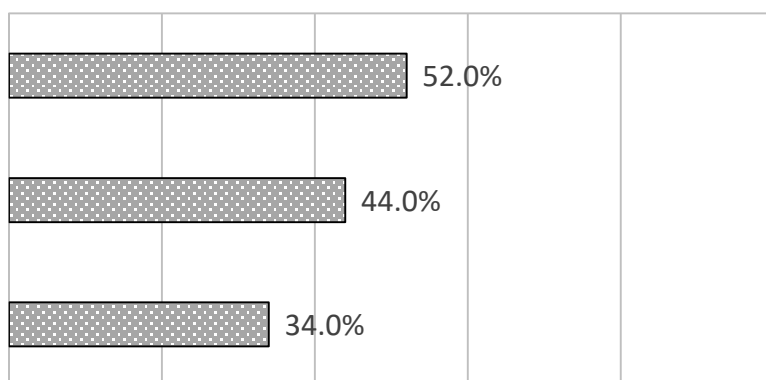
- ・多様性を認め合い、それぞれの得意なことを活かし、苦手な所は人に助けてもらいながら、チームで動くことを学んでほしい。
- ・サービス業では、「おもてなし」の気持ちを持ってほしい。
- ・乳幼児との関わりから、命の大切さを学んでくれればと思う。
- ・どんな仕事でもやりがいを見つける気持ちをもってほしい。
- ・自分自身を知ることや自分で考えて行動することを身に付けてほしい。
- ・自分自身のキャリアデザインについて関心をもってほしい。

(設問) 「トライやる・ウィーク」以外の学校や生徒とのつながりがありますか。



【つながりの内容】

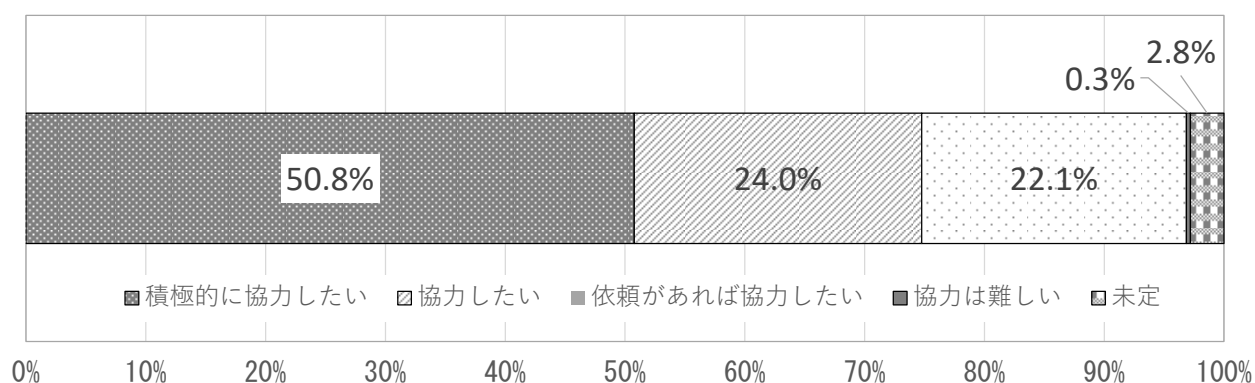
①あいさつや会話



②学校の行事等への参加

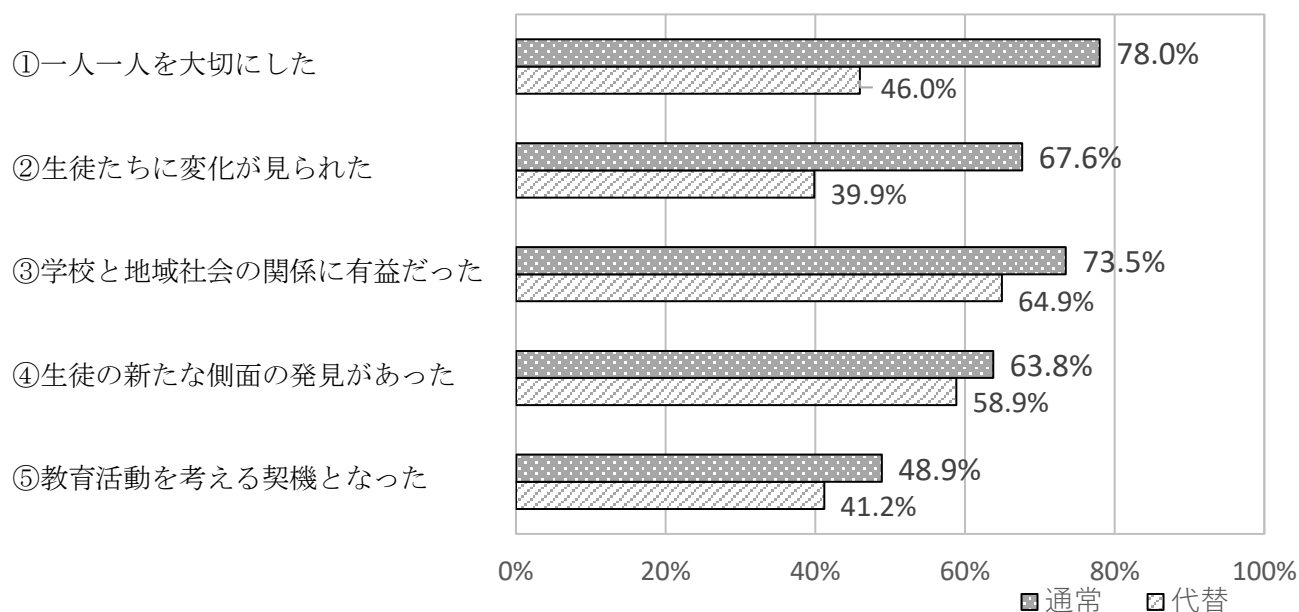
③事業所の行事等への生徒の参加

(設問) 来年度以降も、「トライやる・ウィーク」にご協力をお願いしますか。



4 教職員アンケート（回答数 2,470人）

- （設問） ①一人一人を大切にしたい「トライやる・ウィーク」が実施できた。
 ②「トライやる・ウィーク」を通して生徒たちに変化が見られた。
 ③「トライやる・ウィーク」が学校と地域社会の関係にとって有益な活動であった。
 ④「トライやる・ウィーク」を通して生徒の新たな側面などの発見があった。
 ⑤「トライやる・ウィーク」が教育活動を考える契機となった。



○ 教職員の感想より

- ・わずかな時間であっても、地域の中で、学ぶ時間は生徒たちにとって、非常に貴重なものであり、その意義は大きいと感じた。
- ・コロナ社会の中で受け入れ先を確保することがまず難しい中、3日間とはいえ、開催できたのは、事業所・地域の理解があったことが非常に大きい。
- ・今回は、コロナ禍での実施で1日だけだったのが残念だった。やはり1週間行うことで充実感、達成感が生まれると思う。事業所の方たちとのふれあいや学びなども、1日と1週間では全然違うと思う。来年は例年通り実施できることを願う。
- ・トライやる・ウィークをなぜ行っているのかを引き続き、伝えていくべきだと思った。
- ・周りの人と交流することが苦手な生徒が、体験中自分から主体的に行動することができていた。受入事業所の準備や配慮によるものだと思う。
- ・今回のようなボランティア活動のようなものでもよいと思うが、「職場体験」＝「トライやる」という概念が生徒の中に根強くあるようだったので、その概念を払拭できればと感じた。
- ・生徒にとってトライやる・ウィークは、社会のことを知るきっかけになり、かつ、自分の将来を考えたり、地域の人との温かさを感じたりする良い機会となると改めて感じた。
- ・生徒が自分自身の将来像を実体験を通して考える「きっかけ」となる、大変意義ある取組である。実施時の状況によって工夫を加えながら、今後も継続して取り組みたい。

[資料2] 令和2年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員会について

1 校区推進委員会の設置状況

すべての公立中学校、県立中等教育学校、市立特別支援学校、市立義務教育学校に設置されている。

2 校区推進委員会への参加者数及び内訳（平均人数）

学校関係	P T A関係	地域団体代表等	合 計
5.4 名	4.9 名	5.2 名	15.5 名

3 推進委員会の機能の状況

よく機能している	概ねできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計
23.1%	47.7%	19.0%	10.2%	100%

4 校区推進委員会が行っている活動例

・保護者、地域への啓発・協力依頼	・・・ 62.9%
・受入先の開拓	・・・ 50.0%
・生徒の活動についての検討	・・・ 47.4%
・受入先の検討	・・・ 43.9%
・巡回訪問	・・・ 35.4%
・事前・事後指導における支援	・・・ 32.7%
・アンケート・まとめ	・・・ 21.3%
・取材	・・・ 10.8%